

表題の「カウンエンジニア」というのは、私の造語です。

カウンセラー+エンジニア=カウンエンジニア

コンサルティングマインドを持ったエンジニアが増えると、凄い製品が開発できるのではないか。また、開発プロジェクトでも、各個人が最大限のパフォーマンスを発揮し、すばらしい仕事ができるのではないか。そんな理想を持っていたりします。

また、カウンセラーの「技術」はエンジニアが持っていてもいい「技術」です。心理学というと胡散臭く聞こえますが、経験則を体系化した「技術」だと私は思っています。

プログラムで機械を動かすように、人を行動させたり意のままにすることは出来ません。でも、人はプログラムされていると解釈できる部分もあって、こう刺激するとこう反応する、といった原則があります。そういった「人間に組み込まれているもの」について知っておく。自分ってこういう仕組みで動いているんだということを知っておくと、何か心理的な問題にぶつかった時に、エンジニアらしく問題解決を図れるのではないのでしょうか。

「エンジニアの理想的コミュニケーションスタイル」ということでコーディネータを、三菱電機マイコン機器ソフトウェアの松崎さんとともに行わせていただきます。ワークを通じて、エンジニアが使う技術としてのコミュニケーションをお伝えできればと考えています。

自分でも驚いているのですが、去年のポジションペーパーで書いたことが、現実になっています。強く意識付けをすると本当に実現できるものなのですね。

エンジニアとしての関心ですが、仕様記述言語 ADL が興味深いです。

本業では、仕様をどのようにまとめていくかと共に、誤解なく仕様を開発者側に伝えるにはどうしたらよいかを課題と感じているので、少し予習していきたいと思っています。

最後に、

「エンジニアのメンタル不全を防止したい」というのが、私の産業カウンセラーとしての目標でもあります。

相談事がある場合は、徹夜部屋でも声を掛けてください。

少しでも皆様のお役に立てるように、私自身を磨くことは、私自身の救いのためでもあります。